

日新

日新地区だより 68号

「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日々に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

苟日新 まこと ひ あら 苟に日に新たに
日日新 ひ び あら 日々に新たに
又日新 また ひ あら 又日に新たなり
出典 「大学」

ゆめ
にっしん

発行： まちづくり日新 広報部会
福井市文京5丁目1-8 日新公民館
発行日：令和5年（2023年）12月21日

少しずつ正常な状態に戻り始めたイベント

敬老会（9月）と公民館まつり（10月）

9月9日（土）の午後に、第48回日新敬老会が福井市フェニックスプラザ小ホールで行われました。ここ3年間はコロナ感染症の対策として、後期高齢者宅への記念品の配布だけでしたが、日新地区で今年76才以上の方およそ470名の内出席者は57名（米寿者6名を含め）で行われました。

また、第44回公民館まつりは10月15日（日）午前中から館内外での開催となり、敬老会と同じく会場はコロナ禍では見られなかった参加者全員の満面の笑みで溢れていました。前日の天気予報では一日中雨、しかしみんなの熱気で時々小雨が降る程度でした。屋外での焼きそば等の販売も盛況、大学生も参加してよっしゃこいの踊りも、最後の日新音頭も大盛況のうちに終わりました。

敬老会



実行委員会準備開始



開会式



詩吟朗詠



ゴールデンエイジ合唱団



交通安全隊



底喰川語り



子供達の舞台



主役の皆さん



いつまでも元気で長生きでいてください おめでとうございます

公民館まつり



当日の準備(館外)



当日準備(館内)



館内展示



館内発表



テントで



消防団も参加



大学生も参加



スマイル・コーラス



日新音頭



後始末

久しぶりに素敵なひと時でした

日頃より、日新小学校の教育活動に対してご理解とご協力いただきありがとうございます。



今、学校では、脱コロナに向けて様々な教育活動を再開させています。地域との交流、全校児童での教育活動などは、ほぼ制限なしで実施する方向に舵を切っています。日新地区体育大会、PTA総会、校内体育大会など、いずれも集合型で行いました。PTA行事の親子のつどいや授業参観も通常通り行いました。対外的な行事である福井市連合音楽会、スポーツフェスタも時代に合ったスタイルで改善して実施されました。

一人一台のタブレットの活用は、子ども達に定着しつつあります。今年度、デジタル教科書も導入され、5、6年では算数、3年から6年では国語で活用され、大事な文章にマーカーで線を引いたり、動画を活用して学びを深めたり、付箋に自分の考えをかいたりして意見交換を行っています。また、学習クラウドソフトも導入しました。学習クラウドソフトのドリルでは、授業で学習したことが定着しているかを個人のペースで確認できるようになっています。学習クラウドソフトのノートでは、テンプレートを活用し一斉、個別、協働の各学習場面をつくりだし、授業の中で活用しています。デジタル技術の進歩で、教室の授業のやり方も確実に変化してきており、個別最適な学びと協働的な学びを行っています。



日新小学校の校名の由来にもある「世の中の古くて立派なものを手本にして、新しいものを求めていくこと」をまさに実践している最中です。今後とも地域の皆様のご協力と支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

書道に魅せられ50年

瀧本 幸子 野村 勉



10月末日、小春日和の温かい日に、乾徳2丁目の書道家、和田啓崖先生の家を訪ねました。玄関に足を踏み入ると甘い墨の香りで心身が癒されたように感じていると、出迎えていただいた啓崖先生は身長が高く凛とした雰囲気を持っておられました。早速部屋に案内されお話を聞きました。

啓崖先生は故西山秋崖先生に師事し書道歴は50年以上、今は県内に5か所の書道教室を持っておられます。インタビューの中で、先生は「私の場合は書道ですが、何事も一つの事を続けていき、その時々において生まれた作品を大事に保存し、次に進んでいくことです。これが私のモットーです。」と言われました。また、平成17年に日展に初入賞した時の作品についてお聞きしたところ、なんと一週間前に交通事故に遭い腕が思うように動かない中、体全体で作品に向かった事を話していただきました。小手先で書くのではなく体も精神も集中する事で、力みが抜け、無我になり作品に向われたことと想像します。最後に「今後も書道が続けていく」とおっしゃいました。

来年の公民館まつりの時には先生の作品を展示していただけることをお約束しましたので、皆さん楽しみにして下さい。



世界情勢に監視を！

1914年から1918年にかけて起こった第一次世界大戦その直後はアメリカ・イギリスが大きな力を持っていましたが、イギリスの力が弱まり、ドイツ、日本が勢力を伸ばしてきました。すなわちドイツ、日本とアメリカ、イギリスとの間で対立が現れ、第二次世界大戦が勃発したのです。

現在はアメリカの世界に対する影響力が弱まり、中国が大きな力を持ち始めました。国際政治の構造が不安定になっています。このような状況下で起こったロシアによるウクライナ侵攻、そして2000年以上前から続いているパレスチナ問題（ハマスとイスラエルの戦闘）など第一次世界大戦・第二次世界大戦勃発と背景がよく似ているように思えます。世界情勢に目を向けたいものですね。





元Jリーガーから学ぶサッカー名人になるコツ

11月25日(土)の朝9時より日新小学校体育館にて、元Jリーガーの梅井大輝さんによる小学校低学年を中心にサッカー講習会が行われました。参加者は、児童21名・その保護者の方々・スタッフ併せておよそ50名でした。(進行担当 広報部員 森瀬 明)

講習は一人一個のボールを持ち、「ボールに優しくタッチする」から始まりました。静止したボールに足でタッチするのです。応募者の大半はフェニーチェ福井西サッカーチーム(福井市の湊地区と日新地区中心の少年サッカーチーム)だったのでスムーズにボールコントロールされていましたが、転がってってしまう子もいました。そして時間が進むにつれ徐々に人数を増えさせて、試合形式での講習となりました。負けると目に涙を浮かべる子もいました。梅井さんは約1時間半の講習の中で常に「人の目を見て話を聞く」を強調され、サッカーの技術上達だけではなく人間教育も行っておられました。

【見学に来られた方のお話】

柴田光義さん(フェニーチェ福井西コーチ)

「子供がサッカーチームに入っていたので、それが、きっかけでチームのお世話をしています。チームでは、技術が上達することよりサッカーで遊べる体力、サッカーを通しての仲間づくりを目指しています」

中西航大君のお母さん

「サッカーを通して楽しく、友達の輪が広がることを期待しています。」

鈴木竜二さん(フェニーチェ福井西サッカーチーム代表)

「日新FCと湊SSの合体で始まりましたが、現在のメンバーは福井市内全域(順化・足羽・東安居・西藤・日新・湊)で構成されています。メンバー数は52名(内園児2名)です」

梅井大輝さん

藤島中学校、丸岡高校を卒業後、プロのサッカー選手として14年間J1~3、JFL、地域リーグと全カテゴリーを経験された。現役時代の大怪我の為、昨年引退し、地元で子供向けのサッカースクールを立ち上げた。スクールの名前は「マスターピース・サッカースクール」

今後このちびっ子達の中からJリーガーが生まれるかもしれませんね。

主催側としては、当日の天候が雨、外での実施だったら大変でした。体育館を借りてよかったです。ご協力していただいた皆さんありがとうございました。



気になる疑問

ガソリン税制度はおかしい？

おかしいところは2ヶ所あるように思います。一つ目は税金に税金が掛けられている二重課税です。車の燃料として使うガソリンの場合、もともと53.8円/ℓの税金がかけられています。内訳は48.6円/ℓの「揮発油税」と5.2円/ℓの「地方揮発油税」です。つまり、ガソリン価格が170円/ℓであれば、そのうちの53.8円は税金なのです。そして、この53.8円の税金に対しても10%の消費税がかけられているところです。

二つ目は「当分の間税率」です。これは揮発油税と地方揮発油税に対して「当分の間」かけられている特例の税率です。揮発油税と地方揮発油税は53.8円/ℓと紹介しましたが、これは実は本来の税率ではありません。

本来の揮発油税と地方揮発油税を合わせた税率は、ガソリン28.7円/ℓです。25.1円/ℓが「当分の間」上乗せされ続けている状況が続いているのです。国は、「財政事情が非常に厳しい状況にある」ことを理由にしています。しかし、払うことを拒否することは出来ません。今できることは今まで車で走っていた近所の買い物は、徒歩や自転車で行くようにするなど、でき出来るだけガソリンを使わないように生活していくことくらいかもしれません。



近年、地球の温暖化により気象変化が激しくなり、大きな被害発生が止まりません。漁業においては秋刀魚などの捕獲量は減少、農業では米の品質低下と収量減、野菜も高温や水不足の害で価格高と賃上げ効果も消えていく令和5年でありました。まちづくり日新でも、水問題での被害を防げず、これからどうするべきか、考えなければならぬいくつかの事が発生しています。今年度の具体例をあげます。



- 1・挿し枝の皇帝ダリアが発根せず、枯れてしまう。
- 2・数年がかりで育て、今年は揃い咲きするはずの芝桜も全滅。
- 3・コミュニティー花壇内の四季咲きナデシコや日日草、更に山法師の木も枯れた。
- 4・ミソハギは川よりポンプで水やりなどで防ぐも下枝がなくなる。
- 5・藤中ボランティア用に刈って置いたミソハギは、前日の激雨で流されてしまった。
- 6・雑草の生育が良く、草刈りが困難であった。

などです。来年は又ゼロからスタートだが、頑張れるか不安でいっぱい。地区の皆様のご支援をお願いします。

「必ずやろうやり切ろう 480 名」基準値体制確立の為に!!

令和5年度日新コミュニティーバス運行事業に際し、地域住民の皆様より多大なるご協力に対し心よりお礼申し上げます。誠に有難うございました。2020年より拡大化したコロナ感染症も3年数ヶ月の経過を見、ここに至ってやっと収束の見通しがたち、かつてはコロナ禍の乗車実績は月次100~150名であった結果が、今年4月以降の修正で改正計画により、現在は300名前後までに回復してきている状況に有ります。勿論コロナ禍以前の数値(600~650名)迄には至っておりませんが、徐々にではありますが着実に回復傾向に有る事だけは間違いのない事実かと思われま。 (最終査定令和7年9月末)

又、対外的社会環境の交通インフラ(バス、タクシー業界)の実態も極めて厳しい状況に有り、その要因としては大きくは人の



の廃止、又は減便と対住民に対しての活動の不便さを感じさせる内容にあります。

より利便性を高め、心配の無い生活環境の確立のためにも、弱い立場でもある交通弱者・買物弱者とも言われる高齢者身障者、独居老人の方々の為にもコミュニティーバス事業の展開

組織の確立が極めて重要になるポイントかと私は思います。

令和6年以降も日新のニューシンボルとして、積極的に活発なる対応を絶えず検証を高めながら、現場との密着度を強力に図りながら超高齢化時代、人生100年時代と言われる現

日本で新型コロナウイルス感染症が確認されてから3年半になりました。今年5月に5類へ移行されて学校では脱コロナに向けて通常の対面授業が始まり、運動会も行えるようになりました。日新地区の行事参加者の内8月のミソハギまつりではマスク着用が6割ぐらい、9月の敬老会では4割、10月の公民館まつりでは3割程度と徐々に少なくなってきました。そして11月に政府が発表した感染症対策では「仕事や生活の安定・安心を支える日常生活の回復」として、行動制限の緩和を発表しました。これに伴い飲食店は座席の間隔をあげ手指消毒、換気の徹底で。各イベントも会場では参加者間の適切な距離の確保、機械換気による情事換気にとどまっています。

国民には「大人数が集まる場合は感染予防に心掛け体調を整えましょう。」「換気、手洗い手指消毒、通勤ラッシュや病院等を訪問する時マスク着用」「ワクチン接種の推奨(特に高齢者)」となっており明らかに、対策は緩くなったように思えます。要するに、個々が気を付けて行動することでしょう。

政治家も同じく気の緩みか「政治パーティー資金」キックバックの報告忘れ? いやいや気の緩みは命取りかな。